

COVID-19から地域交通再生を目指した「北海道型MaaS展開事業」

新型コロナウイルス感染症対策と公共交通利用の両立に向けて、「ヒト」「モノ」「サービス」と移動との一体的・効率的な仕組みを構築するとともに、公共交通利用の促進、地域における新規ビジネスの創造を後押ししていくことで、将来における地域交通の維持・確保を目指す。

協議会の 構成員	【幹事】北海道、北海道大学工学研究院、北海道旅客鉄道(株)、十勝バス(株)、北海道拓殖バス(株)、十勝地区ハイヤー協会、帯広空港ターミナルビル(株)、(公社)北海道観光振興機構、十勝観光連盟、(一社)帯広観光コンベンション協会、帯広商工会議所、十勝管内商工会連合会、北海道運輸局、北海道運輸局帯広運輸支局、北海道開発局帯広開発建設部、帯広市、十勝町村会	
地域課題	● 地域住民の、公共交通利用時の新型コロナウイルスへの感染への不安による利用者の減少と、外出頻度の減少 ● 利用者の減少による交通機関の収益の減少 ● 公共交通利用回避による高齢者の交通事故増加の懸念	
取組の概要	期間	2021年2月18日～2021年3月31日
	エリア	北海道札幌市、十勝管内
	MaaSシステム	MaaS Webサイト「Tokachi MaaS project」を独自に構築（決済サービス「wallabee」を利用）
	交通サービス	● 複合経路検索機能(Googleマップへの遷移)の提供 ● 路線バスのリアルタイムな位置情報の配信 ● 飲食店や医療機関の利用券と、路線バスやタクシー等のチケットがセットになったデジタル企画乗車券の販売 ● 鉄道（普通列車）と路線バスの紙のフリーバスの販売 ● 路線バスの支払方法にQRコード決済を導入
	交通以外のサービス	● 飲食店や医療機関の利用券と、路線バスやタクシー等のチケットがセットになったデジタル企画乗車券の販売 ● 都市間高速バスを利用した荷物の輸送サービスの提供 ● 鉄道やバスの新型コロナウイルス対策情報の配信(いずれも外部サイトへの遷移)
検証内容	● 自家用車から公共交通機関への利用シフトの検証 ● 外出機会の創出による消費活動の促進の検証 ● 新たなビジネスモデルの検証	

取組イメージ	
MaaSを通じて提供しているサービスのイメージ 	路線バスの混雑情報の提供 
都市間高速バスを利用した荷物の輸送サービス  その日に送く届けたい・受け取りたい方に最適なサービスです。 (数量や送込先が限定) MaaS Webサイトから利用予約が可能な帯広発、札幌行の高速バスを利用した貨客混載による輸送サービスを提供	
検証結果	
● 実証実験を実施した令和3年3月の公共交通の利用者数は、コロナ禍前（平成31年3月）に比べて約78%と、ほぼ目標値（80%）を達成した。 ● デジタルチケットの販売枚数は185枚、販売金額は529,980円となった。利用者アンケートにおいては、デジタルチケットの「内容」、「金額」、「購入方法」に対する満足度は高かった。 ● 都市間高速バスを利用した荷物の輸送サービスについては、輸送個数3個、利用金額9,180円に留まったが、企業への聞き取り等によれば、今回の実証実験では設定できなかった札幌から帯広への輸送に一定のニーズが見受けられた。	
今後の方向性	
● 現時点ではシステムの運用経費の課題等もあり、令和3年度以降の事業継続や実装については、今後の動向を見据えながら検討を続ける。 ● 将来的な事業継続や実装を見据え、駅やバスターミナルなどの案内板の改善や接続ダイヤの見直しなど公共交通の利便性の向上の取組を進める。 ● また、十勝地域での取組について、全道各地で「緩やかな連携」を図りながら展開していく。	